

生 子 文 動 左



Arts Support Kansai

山口和也

@ザ・シンフォニーホール

全18作品のポストカード18枚+箱額(定価 3,000円)付

/ Peatix





クラシック音楽の殿堂に  
一人の美術家が持ち込んだ絵画  
言葉が存在する以前にあった  
「生きる」という音  
「生きた」という絵  
生命というクラシックの原初へ  
いま旅がはじまる



## BLACKOUT/WHITEOUT

世界がパンデミックに陥って間もない2020年7月、美術家の山口和也はロームシアター京都メインホールの舞台に無人の客席を前にして一人立っていました。初日は闇、二日目は光として演出され、あたかも宇宙空間における個の存在を象徴するようにその只中に置かれた一人の画家は、視覚を抛り所とすることなく、生まれくる衝動を9枚のキャンバスへと刻んでいきました。その筆跡は音となりホールに小さく響いたあと闇や光の彼方へと消えていきました。刻まれた線たちは何かを描こうとしたものではなく、その筆音は演奏を目的としたものではありませんでした。それは絵画や音楽という言葉が誕生する以前の「はじまり」へのアプローチであり、私たちがこの世に誕生してから去るまでの、生きることそのもののようでもありました。山口はこの舞台をリサイタルBLACKOUT/WHITEOUT #0と名付けました。

### 予告

2024年 ザ・シンフォニーホールにて、  
リサイタル BLACKOUT/WHITEOUT  
の開催を予定しております。



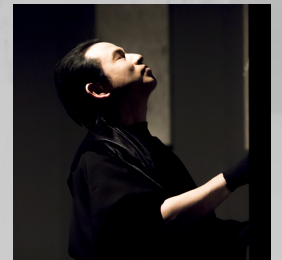
動画：BLACKOUT/WHITEOUT #0

## 絵画というリサイタル

リサイタル BLACKOUT/WHITEOUT の舞台で生まれた筆音の痕跡たちを額装して絵画として再び舞台上へ展示し、それらの産声である録音された筆音と共にご覧いただく展覧会が「絵画というリサイタル」です。  
本展では2021年3月におこなったリサイタル BLACKOUT/WHITEOUT #1で描かれた計18点の絵画をご覧ください。生命の鼓動へと耳を澄まし、古典から更なる原初へとアプローチするこの旅は、素晴らしい音響を誇るクラシック音楽の殿堂ザ・シンフォニーホールを会場とすることに大きな意味があります。

### 作品集”BLACKOUT/WHITEOUT”（音源付）

リサイタル BLACKOUT/WHITEOUT #0・#1の舞台で描かれた全36点の絵画を収めた作品集を3月13日に刊行いたします。



### 美術家 山口和也

Website:



瞬間的な痕跡によって永遠性を描き出す美術家。音楽家と一対一でステージに立ち、その間合いを焦点とした即興で描かれる"KAKIAIKKO"で、2000年 関口芸術基金賞(TAMON賞) グランプリを受賞。副賞として滞在したニューヨークで日本画家千住博の依頼を受け、アトリエでの制作風景を五年間撮影、二冊の写真集を刊行する。2008年からは辰吉丈一郎の撮影を続ける。2016年 特製花火を用いた観音寺本堂(兵庫)の天井画「鳳凰図」が完成。2017年 自ら山へ入って採取した原料を用いた紙漉きからその制作をはじめ A piece of the universe を発表。2018年 日本で唯一の紙祖神を祀る 岡太神社・大瀧神社(福井)の「千参百年大祭・御神忌」にて「絵画点火式」を奉納。同年一休禅師を開祖とする大徳寺真珠庵(京都)の本堂襖絵「空花」が完成。2019年 アルマーニ銀座タワーでの即興ライブペインティングで BLACKOUT/WHITEOUT の着想を得る。ロサンゼルスにて世界最大の花火会社のひとつである PYRO SPECTACULARS の協力により滞在制作・新作発表をおこなう。2020年リサイタル BLACKOUT/WHITEOUT #0を無観客上演。#1を初公演。  
受賞歴：日本ビジュアルアート展 特別賞、フラッグアート展 日比野克彦賞、関口芸術基金賞(TAMON賞)大賞、高砂市文化奨励賞など